

## 研究主題 持続可能な社会づくりのための環境教育の推進

～消費者視点から生産者視点への環境教育によって育む学力と環境保全意欲～

### I 本研究会の概要

1964年に公害対策研究会として発足。その後、環境教育、ESDと時代を反映した研究と教育普及を実践している。低炭素社会、生物多様性社会、資源循環型社会を目指すことは持続可能な社会づくりに繋がる。「持続可能な社会のづくり手の育成」として環境教育・ESDを推進し、将来世代の育成を行っていく。

研究部による研究を要とし、授業モデルの構築をするとともに、自然観察会や工場見学会等を実施している。

### II 主題設定の理由

これまで東京都小中学校環境教育研究会は、人類の行き過ぎた社会活動が引き起こした環境問題に警鐘を鳴らし、持続可能な社会への改善を試みる教材開発を進め、授業実践を進めてきた。

昨年4月、米国で開催された気候変動サミットにおいて、日本政府は地球温暖化ガス排出量を2030年までに、2013年度比で46%削減すると表明した。現在、各国政府のみならず、民間や経済界はSDGsに対して大変真摯に積極的に取組を進めている。

—消費者視点から生産者視点へ—

これまで取り組んできた環境教育は、主に消費者の行動に視点を当てたものが多かった。例えば、「マイクロプラスチックを減らすためにプラスチックの消費量を減らそう」「食品ロスをなくすために買い物工夫しよう」等の取組等がある。しかし、今学んでいる多くの子供たちは、10年、20年後には、消費者としてだけでなく、生産者として社会に出ていく。そのため、今の学びを次の世代に繋げるためにも生産の過程から消費の段階の全体を視野に入れ、環境保全意欲を高めていく必要がある。これにより、私たちが営む日常全てにおいて、無意識で環境を守ろうとする心を培うことができると考えている。

これまで本研究会が取り組んできたESDは、その実現を可能にすると信じている。それは教育の、教師の、そして児童・生徒の変容をまさに希求するものである。

### III 研究の方法

- (1) 役員定例会で理論構成
- (2) 本研究会で作成した「新しい環境教育」で示した児童・生徒の3つの能力・態度をもとに、研究部において教材開発、授業実践を行う。

児童・生徒の視点を消費者視点から生産者視点へ広げ、自らが生涯にわたる環境保全への継続的な意欲を高めるためのモデル授業の構築を行う。

【モデル授業の構築】小学校第5学年総合「つくる責任・使う責任」

サプライチェーンにおける環境保全の取組を考える。

- (3) 研究発表校、研究部員所属校、外部機関、企業と連携し研究実践を深める。

【実践】研究員の所属校で授業実践

企業との連携による授業構築

(2022年度は、味の素(株)と連携)

#### IV 研究の過程

- (1) 学校現場での ESD の推進状況の確認
- (2) 昨年度の研究成果の検証
- (3) 企業（味の素(株)）との連携による生産者視点を取り入れた教材開発
- (4) 研究部員の学校における授業実践
- (5) ポートフォリオによる授業検証

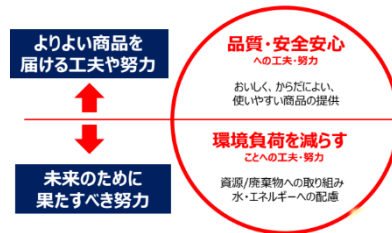
#### V 授業実践例

小学校第5学年総合「つくる責任・つかう責任」

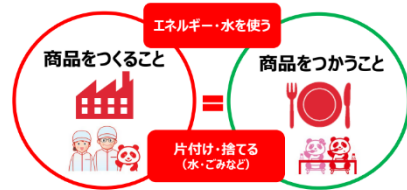
- (1) 「サプライチェーン」における環境保全の取組を知る。



- (2) それぞれの行程における環境負荷やエネルギーロスや「つくること」と「つかうこと」の共通点を見出しながらか、自分たちにできることを考える。



- (3) 各自の取組と関連付けながら、探究をしていく。



#### VI 成果と課題

##### 【成果】

- ・企業と連携をすることで、生産者の視点へ視野を広げることができた。これにより、消費行動への変容も見られた。

##### 【課題】

- ・教員一人一人が現代社会の抱える環境問題をより一層深く知り、子供たちと共に考える必要性が明確になった。

#### VII 本研究会のその他の活動

##### (1) 研修会

- ・リサイクル研修会(8月2日)  
JFE スチール(株)他
- ・自然観察会(8月5日) 御岳山
- ・夏季研修会(8月23日)  
味の素(株)川崎工場
- ・動物園研究会(2月4日)  
井の頭自然文化園



##### (2) 第58回東京都小中学校環境教育研究発表会

(第54回全国小中学校環境教育研究大会と共催)

令和5年1月28日 オンライン開催

講演「地球環境変動と生物多様性(仮)」

講師: 国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室  
室長 五箇 公一 氏

#### <連絡先>

団体名		東京都小中学校環境教育研究会
代表者	所属	多摩市立連光寺小学校
	職 氏名	校長 関口 寿也
	連絡先	042-373-1920
事務局	所属	世田谷区立玉堤小学校
	職 氏名	校長 伊藤 修久
	連絡先	03-3701-1536

## 研究テーマ：グローバル人材を育む国際理解教育

### I 東京都海外子女教育・グローバル教育研究会について

- ◇本会は、在外施設派遣経験の教員が中心に組織する。  
 ◇本会は、東京都の国際理解教育、帰国幼児・児童・生徒の教育、在外の幼児・児童・生徒の教育の充実・発展を願い教育研究活動を推進することを目的とする。
- (1) 在外教育施設から帰国した教員の歓迎会
  - (2) 在外教育施設へ派遣を希望する教員への研修会
  - (3) 在外教育施設での活動報告
  - (4) 在外教育施設へ赴任する教員の壮行会
  - (5) 東京都のグローバル教育を牽引する研究活動

### II 主な活動内容

◇国内外の国際理解（現地理解）の実態を明らかにするとともに、東京都の「海外帰国子女教育」「国際理解教育・グローバル教育」「外国人児童・生徒教育」の充実を図る。

#### 【研修内容】

- 5月 総会・派遣希望者学習会
- 6月 在外教育施設派遣教員帰国歓迎会
- 7月 在外教育施設講演会並びに派遣希望者研修会  
講演会「世界遺産ガラパゴスに学ぶ持続可能な社会の作り方」  
NPO 法人日本ガラパゴスの会 専務理事 奥野 玉紀様
- 9月 在外教育施設帰国報告会（1）  
江戸川区立下鎌田西小学校 鈴木 侑先生（バンコク日本人学校）  
八王子市立恩方第一小学校 森嶋 厚博先生（ブノンペン日本人学校）  
指導講評 東京都教職員研修センター指導主事 野寄篤子先生
- 10月 在外教育施設帰国報告会（2）  
八王子市立館小学校 森山 喜明先生  
（アムステルダム、ブノンペン、ソウル日本人学校）  
武蔵村山市教育センター教授 小野江 隆先生  
（ジャカルタ、蘇州、パリ日本人学校）
- 2月 来年度在外教育施設派遣者との研修会



### III 学校における国際理解教育（全海研関東ブロック大会研究発表から）

◇We have wonderful Fuchu!  
 「おすすめの市内1日観光プランを紹介しよう」  
 小学校6年英語

#### 【学習計画】

- 1 市内1日観光プランを作る。
- 2 観光プランの紹介文を考え、発表練習をする。
- 3 グループで自分が作ったプランを紹介する。
- 4 自己紹介と観光プランの紹介をする。



#### 【文章・単語表現】

- ・あいさつや自己紹介に使える文  
Where are you from? など
- ・おすすめの場所を紹介するときに使える文  
This is my/ our tourism plan～ など
- ・その場所への行き方を説明するときに使える文  
Go out of the south exit. など

◇「日本の文化を外国の人に紹介しよう」  
 小学校5年英語

#### 【学習計画】

- 1 学習活動の流れを知る。
- 2 伝える内容を決める。
- 3 自己紹介の文(20秒程度)を作る。
- 4 わかりやすい説明の工夫をし、練習をする。
- 5 留学生と交流をする。

#### 【紹介内容】

- 1 日本の歌・・・日本で古くから親しまれている詩
- 2 漢字・・・季節の行事や習慣について
- 3 昔遊び・・・けん玉・めんこ・おはじき・はしつかみなど
- 4 日本の楽器・・・たいこ



◇「武漢への手紙」 小学校3年総合的な学習の時間

令和3年2月、コロナウイルスの最初の被害にあった中国の都市武漢に学年全体で160通の応援の手紙を送った。Google翻訳で調べた中国語を手紙に書く姿が見られた。歴史的な両国の関係よりも、未来を創る子どもたち同士がアジアの隣国としてメッセージをやりとりしている姿を見て、アジアにおける近隣国同士として協力していく体験をさせることの大切さを感じた。

◇「JICA国際協力出前講座」～世界を知ろう！ JICAボランティアの経験から学ぶ～  
 中学校2,3年総合的な学習の時間

【目的】～世界を知ろう！ JICAボランティアの経験から学ぶ～

- (1) JICAボランティアの活動やボランティアの様子を通して、国際協力の必要性について知るとともに、自己の生き方を考えるキャリア教育の一環とする。
- (2) 開発途上国の実情や日本との関係、世界の国・地域の文化や人々の暮らしを知ることを通して、異文化を理解し、国際的な感覚を培う一場面とする。

#### 【内容】

JICAボランティアを経験した方から、JICAボランティアを志した理由、開発途上国の実情、派遣国での活動、派遣国の文化や人々の暮らし、日本との関係、やりがいや苦労したことなどについて話を聞き、国ごとに分かったことを発表する。

#### IV 在外教育施設での研究実践～帰国報告会から

### 個に応じた一人一人の児童・生徒の指導・支援について ～日本人学校における特別支援教育～

フランクフルト日本人国際学校派遣 佐々木 啓治

#### 【研究の背景と目的】

日本国内から支援できる仕組みづくりを目指して (遠隔支援システムの構築)

- 日本人学校においても
  - 特別な支援を必要とする児童・生徒が多数在籍
  - 更に入学希望が増加
- しかし日本人学校(海外)においては
  - 特別支援教育に関する専門機関が少数であるのが現状
  - 特別支援教育を充実させるための教育資源が少ない
- 日本国内にある学校と同様に
  - 特別支援教育の充実、支援体制の構築・推進が喫緊の課題



#### 【研究の成果】

- 遠隔支援コンサルテーションを実施することで、日本の特別支援学校の豊富な知識と高度な専門性を享受することができた。
- 遠隔支援コンサルテーションによるアドバイスを実践した結果、児童生徒の行動が改善され、教員の変化もあった。
- 支援シートを効果的に活用することができた。この結果、教員間で特別な支援を必要とする児童・生徒のポジティブな面を共有できる雰囲気ができ、このことが、対象となった児童生徒だけでなく、他の特別な支援を必要とする児童生徒への支援にもつながった。
- 遠隔支援コンサルテーションを全教職員が視聴可能な研修にしたことで、全教職員の児童・生徒理解が深まり、特別支援教育に関する専門性の向上につながった。

### 小中連携プロジェクト：9年間で「自立した学習者の育成」へ

バンコク日本人学校派遣 鈴木 侑

小中連携会議において、小中9年間で目指す児童・生徒像の設定、育成したい資質・能力を明確にすることが挙げられ、「目指す児童・生徒像の明確化と共有」「目指す児童生徒像に向けた各教科・領域の年間指導計画」「ICTスキルの作成」に向けてプロジェクトを進めることになった。

#### 【自律した学習者】の具体的な姿

- 自分の見出した問いから課題を立て【課題把握】、その解決方法を見出し【学習計画】、粘り強く解決しようとする【実践】ことができる児童・生徒
- 学びに主体的に取り組むとともに、必要に応じて他者と協働し、互いのよさを生かしながら学ぶことができる児童・生徒

これらを踏まえ、研究主題は「自分なりの問いをもち、学び続けられる児童・生徒～探究的な学びのある授業を通して～」と設定した。各教科等の本質も踏まえながら、小中9年間の系統的カリキュラムを作成し、探究的な学びのある授業の実現を目的とした。内容及び方法は、①カリキュラムマネジメント、②授業デザイン、③育成した資質・能力表の作成とした。本研究は3年次研究として提案した。



### H27年度 パリ日本人学校派遣 師尾 勇生

私が派遣されたフランスでは、移民の受け入れが多く、街全体が多国籍であるのはごく自然なことであり、異文化交流は日常のことと感じられた。一方、日本では、ここ数年で、国内在住と思われる外国人を見かけることが増えている。移民については様々な条件の違いもあり、未だ社会全体として積極的に受け入れているとは言い難い。

内閣府・文部科学省・外務省から示されている「国際交流を通じたグローバル人材の育成」では「①グローバル化に対応したリーダーシップ能力・異文化対応力の育成」、「②日本人としてのアイデンティティの確立を図るための国際交流」が求められている。

総合的な学習の時間や道徳科などで扱う資料を通しての国際理解教育だけでなく、全教育活動においてSDGsの視点を持ち、持続発展する社会を支える人材として主体的な課題に立ち向かう姿勢を育成することが重要だ。(令和4年度 全海研関東ブロック研究大会研究発表から)

### R元年度 バンコク日本人学校派遣 鈴木 侑

派遣最終年度は、研究主任として校内研究、校内研修、学校採用教員研修など学校運営に携わる業務に取り組んだ。初めて担任ではなく、学校全体を見る仕事に就かせていただいたことで、自分の物差しや視野を広くもつことができた。特に、学校採用教員研修では、若手教員に指導助言する立場を経験できたことで、学校全体で子供たちを共に育てるという意識を強くもつことができた。また、派遣前の先輩から聞いた「日本人学校はエースで4番の集まり」という言葉がまさに職員室であった。互いに刺激を受けながら、そして、それぞれの特性を生かしながらバンコクに住む子供たちのために全力を注ぐ。それは、ここでしかない貴重な経験であった。そして、多くの財産も得た。それは子供たちのためにタッグを組む仲間である。そのつながりは一生の財産となった。人を育てる仕事、人と関わる仕事、それぞれの価値観、思いは異なるけれど、向かう先、目指すところは同じである。それが何より嬉しく思えた。そういう意味でもバンコクの日本人学校は世界一だと思う。最後に、派遣していただいた東京都、派遣前に多くの御指導をいただいた都海研の先生方には感謝の言葉しかありません。

#### <連絡先>

団体名		東京都海外子女教育・グローバル教育研究会
代表者	所属	府中市立府中第五小学校
	職氏名	校長 森嶋 正行
	連絡先	042-361-9005
事務局	所属	町田市立鶴川第三小学校
	職氏名	主幹教諭 野上 光一
	連絡先	042-735-2127

## 研究主題 東京都学校保健研究会 教育実践発表

### I 団体の概要

本会は、東京都公立学校、その他の学校の教職員およびその他の学校保健関係者等の会員 282 名（令和4年度11月現在）で構成される研究団体であり、小学校部会、中学校部会、高等学校部会を設置・統合して運営している。また、全国養護教諭連絡協議会に加盟するとともに、小学校部会は東京都公立小学校長会、並びに中学校部会は東京都中学校教育研究会に加盟している。

現在、東京都教育委員会研究推進団体・東京都教職員研修センター長より教育研究普及事業の認定を受け、研究会を年5回（夏期2回）実施するとともに、調査研究部を中心に喫緊の健康課題をテーマに調査研究を行っている。



### II 研究会の目的 及び 事業

学校保健の一層の充実、発展を図るために、研究及び研修することを目的とする。

また、目的達成のために次の事業を行う。

- 1 学校保健に関する講演会などの開催
- 2 学校保健に関する調査研究
- 3 会員相互の研究発表や実践発表
- 4 学校保健関連団体との連携、協力、情報の収集



### III 事業内容

#### 1 学校保健に関する講演会

令和4年度

- |     |    |                            |
|-----|----|----------------------------|
| 第1回 | 6月 | 総会・記念講演                    |
| 第2回 | 8月 | 夏期研修会（午前の部）                |
| 第3回 | 8月 | 夏期研修会（午後の部）                |
| 第4回 | 配信 | 東京都教職員研修センター「各種研究団体との連携研修」 |
| 第5回 | 2月 | 研究発表会・講演                   |



#### 2 学校保健に関する調査研究 令和4年度（1年目）

##### 研究主題「多様な性のあり方と養護教諭の対応」



学校現場においても性の多様性への対応が求められている現在、学校現場での課題を明確にし、養護教諭の視点並びに保健室という機能を生かしたダイバーシティの推進を図ることを目的とし、本研究会会員及び研究会参加者へ調査を実施した。

#### 3 会員相互の研究発表や実践発表

年5回開催する研究会の内容として、研究発表や実践発表の場を設ける。



#### 4 学校保健関連団体との連携、協力、情報の収集

全国養護教諭連絡協議会、日本学校保健会、日本学校歯科保健・教育研究会等

## IV 研究会の内容

### ○第1回 総会・記念講演

令和4年6月21日（火） 池坊東京会館にて

記念講演「養護教諭が知っておきたいリスクマネジメントと危機管理」

【講師】日本女子大学 教職教育開発センター 教授 坂田 仰 氏

### ○第2回・第3回 夏期研修会 （実践発表・講演・研究発表）

令和4年8月17日（水） 池坊東京会館にて（後日オンデマンド配信）

実践発表 「養護教諭が行うNIE —健康新聞カルタの実践—」

【発表者】国分寺市立第五小学校 養護教諭 増渕 優花 先生

研究発表 「保健室から発信する児童虐待対応」 調査研究部

【講評・講演】和光大学現代人間学部心理教育学科 教授 熊上 崇 氏

講演・演習「保健室で使えるフィジカルアセスメント」

【講師】千葉大学医学部付属病院総合診療科 特任助教 横川 大樹 氏

### ○第4回 東京都教職員研修センター「各種研究団体との連携研修」

令和4年8月～9月 オンデマンド配信

講演 「不登校・不登校傾向にある児童・生徒への支援

—児童・生徒へのメンタルヘルスケアと外部機関等との適切な連携の在り方について—

【講師】東京都教育庁指導部主任指導主事 美越 英宣 氏



国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター

総括研究官 高橋 典久 氏

### ○第5回 2月研究会 （調査研究中間発表・講演）

令和5年2月2日（木） 全水道会館にて <※予定>

調査研究発表 【講評】埼玉大学 教育機構基盤教育研究センター 准教授 渡辺 大輔 氏

講演 「生徒と先生のためのコーチング流コミュニケーション」

【講師】日本親子コーチング協会 理事・MUSE COMPASS 代表 愛川 よう子 氏

## V 成果と課題

研究活動、研修会を通して、日々の実践を振り返り、共有しながら、課題解決に向けて協議検討することで、養護教諭や学校保健関係者の資質向上やスキルアップにつながった。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対応も含め、適切な判断や迅速な対応が常に求められているため、最新の情報を収集し今後も資質向上に努めたい。

## VI 今後の活動予定

- ・令和4年度研究会誌「花」発行
- ・令和4年度東京都中学校教育研究会会報発行

※ 詳細は本研究会ホームページをご参照ください。

<https://www.togakuho.com>



### <代表者・連絡先>

団体名		東京都学校保健研究会
代表者	所属	足立区立竹の塚中学校
	職 氏名	校長 齋藤 由美子
	連絡先	03-3883-1251
事務局	所属	港区立御成門小学校
	職 氏名	主任養護教諭 大竹 千登勢
	連絡先	03-3431-2766

# 学校保健活動・学校経営・学校運営に関する実践報告

## ～ 資質向上・健康教育推進の人材育成を目指して ～

### 目的 Purpose

東京都教育委員会教育研究推進団体支援事業における推進団体として、学校保健活動及び学校経営、学校運営、学校教育に関する研究・研修を行い、会員の資質向上を図るとともに健康教育推進の人材育成を図る。

### 研修報告 Training report



2022.6.25

#### 管理職に期待すること ～これからの教育課題を通して～

千代田区教育委員会 教育長

堀米 孝尚 氏

現状維持は後退である。  
柔軟な発想と思い切った学校経営が必要である。  
自分の教育理念を確立する。



2022.8.9

#### 組織を動かす リーダーのあり方とは

グロービス経営大学院 教授  
株式会社グロービス ファカルティ本部  
シニア・ファカルティ・ディレクター  
林 恭子 氏



2022.10.8

#### トイレから考える子どもと学校

NPO 法人

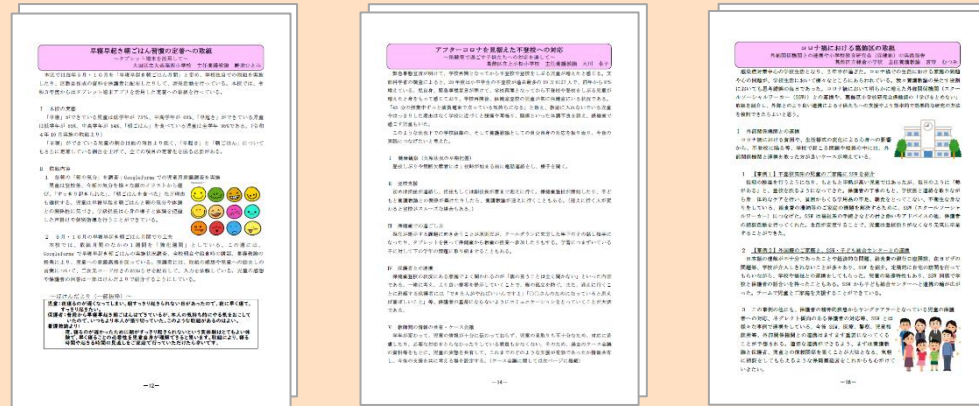
日本トイレ研究所 代表理事 加藤 篤 氏

小学生の子どもの 20.2% が便秘状態にある。  
小児期に便秘を発症しやすい3つの時期がある。  
トイレと SDGs を考える。  
災害時のトイレ不足を 39% の都市が懸念している。



## 実践報告 Practice report

学校現場の様々な取組や活動の成果、課題について共有・協議し、実際の対応について検討する機会になった。子供たちの成長につながる学校保健活動の充実に努める。



「早寝早起き朝ごはん習慣定着への取組」

「アフターコロナを見据えた不登校への対応」

「コロナ禍における取組」

等

## 成果・課題 Achievements/Challenges

学校経営や学校運営、組織マネジメント、健康教育について見識を深め、学校経営を担う管理職、また学校保健を主とした学校運営を担う養護教諭としての資質向上を図ることができた。所属する組織において共通する課題を解決するために今後も研修・研究をより一層充実させる。

## 今後の予定 Schedule

# 12.10 (土)

会場 港区立六本木中学校



### 子どもの心の健康と自殺予防

帝京平成大学 健康メディカル学部  
心理学科 准教授 莊島 幸子 氏

# 4

研修会の内容を詳しくご覧になりたい方は、本研究会ホームページまでお問い合わせください。

<https://kanna.promole.net/>



## 研究会 構成 Composition

本研究会は、養護教諭経験のある管理職・学校保健に関心のある管理職・主幹教諭（養護教諭）・主任養護教諭・養護教諭・その他学校保健に関心のある教職員・医療関係者をもって構成する。



### <連絡先>

団体名		東京都学校保健経営研究会
代表者	所属	葛飾区立柴原小学校
	職 氏名	校長 矢吹 理恵
	連絡先	03-3607-1675
事務局	所属	港区立六本木中学校
	職 氏名	副校長 松島 智子
	連絡先	03-3404-8855



東京都学校保健経営研究会